

# 洛北SSHだより

## Super Science Highschool

2009年10月13日発行 第6号

- ・生命科学特別講義
- ・高校1年中高一貫コース
- ・サイエンス部

### 生命科学 I 特別講義②

「動物行動学へのいざない-行動を記録する、行動を測る-

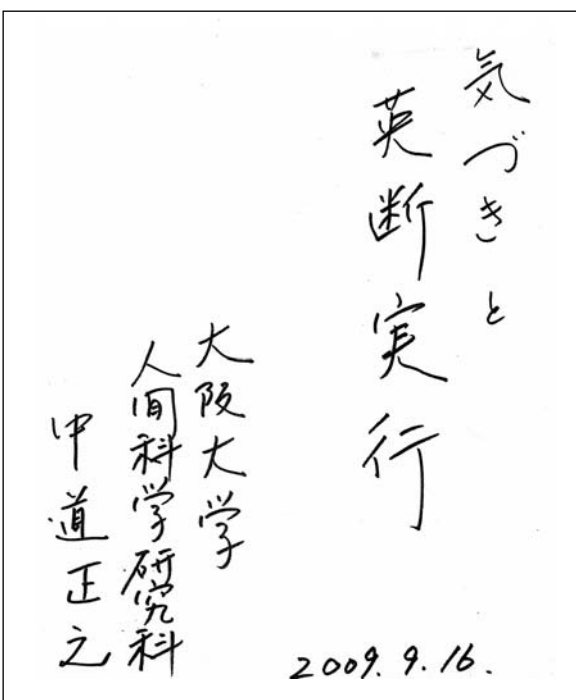
講師 大阪大学大学院人間科学研究科 教授 中道正之 先生

9月16日(水)の5・6限に生命科学I特別講義として大阪大学の中道正之先生に講演していただきました。先生は野猿公苑のニホンザルや動物園のゴリラやキリンなど、数々の動物の行動を観察し、大変おもしろい研究をされていて、今回はその一端を紹介していただきました。そのなかでも、グループ内で順位が存在することを様々な事例を通して紹介していただきました。後半は行動観察の方法を実習しました。まず、行動を測る方法としてのタイムサンプリング法や連続記録法を説明していただき、実際にニホンザルの親子のVTR映像を見ながら、全員で模擬実習を行いました。短時間の実習でしたが、実際に現場でどのようにしているのかがよくわかりました。



中道先生は本校の卒業生で、とくにサッカー部への思いをとても強く持っておられます。講義の後も、本校のサッカー部の思い出話に花が咲き、サッカー部の練習も見に行かれました。「卒業生してから、母校で講義をすることを本当に光栄に思います」と語っておられました。

今回生徒が行った15分程度の実習を丸一日、あるいは一週間、数ヶ月と同じことを続けられること、それが研究者のやっていることです。生き物を知るためには見続けることが重要で、元大阪大学総長の岸本忠三先生の「継続が創造性を生む」という言葉を引用して研究者となるための姿勢を教えてくださいました。



◎ 9月19日(土)にサイエンス部生物班が日本動物学会第80回大会でポスター発表を行い、優秀賞を受賞しました。

発表テーマ「霊長類の頭骨神経孔(茎乳突起)と表情の関係」

